

第65回インテリア設計士資格検定試験

<1 級 論 文 用 紙>

<課題> 和紙や西陣織、また網代や組子など日本の伝統工芸や技術がインテリア素材として世界から注目を集め、そのトレンドは商業空間を中心に国内にも回帰している。その流れをさらに発展させるために、それら素材や技術のどんな使い方が新たに想定できるか、ケーススタディとして既存の実例を紹介するとともに、複数の具体的な伝統素材・技術を自由に設定し、住宅など身近な空間におけるそれらの採用計画を述べよ。

(文字数は800字以上1,000字以内とする)

1/3

現在開催中の大阪・関西万博では西陣織がパビリオン全体を覆う。不動産企業と大阪公立大学の共同出展館「サステナブル・メビウス」で、未来の伝統の継承を唱える。西陣織の老舗、細尾が関わり、日本の伝統工芸への世界の着目を象徴する現象でもある。

100

話を本題のインテリアに戻そう。細尾はデイオールの世界100都市の100店舗へのインテリア材として西陣織を納入、これを皮切りに、シャネル・エルメス・カルティエなどの一流ブランドの内装にも採用され、その流れは他の伝統企業の海外進出にも繋がる。世界の超一流ホテルを中心に、日本の伝統工芸や技術の展開は普遍化した現象となってい

200

る。 300

特に日本を訪れる外国人の増加を背景に、国内の新規のホテルでその傾向が目立つ。「星のや東京」では網代を大胆に使用したエントランス、また伝統工芸×Brand newをコンセプトにした金沢の「らしく金沢」⁴⁰⁰では、技法がユネスコ世界遺産に登録された縁付金箔を重ねた豪華絢爛な組子細工が客を迎える。「ハイアット・セントリック金沢」ではエントランスの金箔を施した松の現代アートに続き、ロビーでは弁柄色の格子の木虫籠（きむすこ）がスペースを区切る。京都三井ビルのエレベーターホールでは光天井の一部が組子で、ANAクラウンプラザ京都ではロビーの壁面が組子パネルで、ともに裏面からの光の効果が幽玄な表情を醸す。⁶⁰⁰

いずれもハイエンド市場での展開であるが、身近な生活に取り入れられないか。紙幅の関

係で西陣織・網代・組子で想定してみよう。

西陣織はタペストリーやテーブルランナーに、また額装して並列させればむしろ和モダン性が増幅する。広幅で製品化されたものを利用すれば壁紙や襖紙、またパネルやパーティションとして、さまざまに展開できる。

700

網代・組子は本格的手工芸品となると非常に高価となり納期も必要となるが、家具の扉材として、また建具材、パーティションとしてなら手が届くかもしれない。シナ合板にレーザー加工したパネルなど安易な商品も出回っているが、本物には別格の気品と風格が漂う。小さな店舗でも壁面への採用は小面積でも優れた効果を発することと思われる。

800

900

1000